

学 校 だ よ り

平成28年10月1日



10月号

NO. 331

横浜市立茅ヶ崎小学校  
校長 岩本 悦子

## 「文化の秋」

秋清の候を迎え、そこはかたなくキンモクセイの香りがただよっています。子どもたちは、運動会の準備・練習に熱心に取り組んでいます。

さて、横浜市では昭和62年から小学校国際理解教室を開始しました。小学校6年間で6つの国や地域につながる外国人講師と触れ合い、異なる文化について体験的に学ぶことで、異文化を尊重し、国際社会に生きるために必要な心情や態度を育てたいと考えています。

9月6日(火)本校は国際理解教室、外国人講師の方々の研修会場となりました。本校外国人講師、オーストラリアのササキ ニコル先生、モロッコの先生、スリランカの先生が当日、授業を公開されました。授業開始前に本研修に参加される外国人講師の方々が昼休み、体育館にお集まりになる時間を活用して、「コミュニケーションタイム」を設定しました。各クラス10人ぐらいの子どもたちと各国の外国人講師の方々がおしゃべりする時間です。始めは緊張気味でしたが、次々と外国人講師の方を囲んだ輪ができました。にこにこしながら英語で挨拶しています。私は、子どもたちの積極性に驚くとともに、笑顔で楽しそうな姿をとともうれしく思いました。短い時間でしたが、6人もの外国人講師の方と話をした子どももいました。



また、9月15日(木)には、4・5年生が参加した「ボツワナ50周年記念作文コンクール」の優秀賞の表彰式がボツワナ大使館で行われ、4年生3名、5年生3名が参加しました。ボツワナ共和国との交流を通して、遠く離れているボツワナ共和国の生活や思いを知り、文化や習慣の違いを認め合ったり、共通点を発見し合ったりする活動を通して、異なる文化を尊重しようとする心情が育まれてきました。

異文化に触れることによって、日本の文化を再認識することも大切であると考えます。今年度から日本文化クラブがクラブとして活動しています。お抹茶を飲んだり花を生けたり、ゆかたを着たりなどの体験をしました。今後は日本舞踊の体験も計画しています。

日本と外国との言語や生活や習慣の違いを知り、多様なものの見方や考え方があることを感じてほしいと思います。「食欲の秋」「芸術の秋」となりました。みなさんも様々な国の文化に触れてみませんか？